

# 町家、雁木と景観について

新潟大学工学部建築学講座准教授  
2012年から上越市景観審議会会長

黒野 弘靖さん



学生とともに上越市の雁木や町家の勉強をさせていただいています。町家にお住まいの方が「私たちは家の前を空けて誰でも通れるようにしています。」と言われるとき、雁木軒裏の雪樋を指して「これ何か知ってる?」と学生に声を掛けて下さるとき、雁木は生きていると実感します。

江戸時代の記録にあるといっても、雁木の柱や屋根自体が残っているわけではありません。目に見えない雁木の空間を、お住まいの方々が意識して受け継いでこられました。町家を勉強させていただき、雪下ろしや祭りに雁木を拠り所としていたことなど、雁木が生活に根ざしていると少しずつわかってきました。

物の見え方を扱う景観は、雁木の空間にとって重要です。上越市の景観まちづくりは、南本町3丁目のように、お住まいの方々の取り組みを支援するものです。活動に参加された方々は、雁木のもつ生活の知恵を再発見されていると思います。のれんの出し方ひとつからもそれが伝わってきます。

## 南本町三丁目の 景観まちづくりに参加しました

上越総合技術高等学校 — 課題研究：地域交流班 —



左から平井優樹さん、中村羽那さん、松木優奈さん

地域交流班では、南本町三丁目景観まちづくりを地域の方と一緒に行いました。修景ワークショップへの参加、空き町家の利活用の検討などの景観まちづくり活動の感想を聞いてみたいと思います。

### 一年間、地域の方と活動した感想は?

- まちのことをもう少し勉強しておけば、幅広い年齢層の方と会話の糸口をつかみやすかったと、少し反省。
- 学生として関わることが限られている中で、何ができるのかを考える過程も勉強になったし、人に喜んでもらえる達成感もありました。

### 印象に残ったこと、楽しかったことは?

- イベント時の参加者とのコミュニケーションや後輩達と一緒にいった「格子塗装」が印象に残っているかな。
- 実際に手を動かした「のれん染め」や「格子塗装」は、大変だったけど成果が目に見えて嬉しかったな。

### まちに対する印象は変わった?

- 実際に景観まちづくりに取り組んだので、近くを通るとついつい気にしてしまう。
- 僕達若者が関わることで、まちって元気になるんだな、と実感しました。

### 今後、後輩や学生が関わるとしたら、どんなことができると思う?

- 地元の人と一緒にものづくりをすることで、会話が自然と生まれ、コミュニケーションのきっかけになるね。
- 雁木通り祭りなどの地元の盛り上げるイベントを高校や友達にPRすることも協力できそうかな。

### 今後、どのような活動があったら、まちがより良くなると思う?

- 今回行った雁木塗装などの活動が、雁木通りに広がっていくと良いかな。
- 人と人との交流を深める行事があればまちも人も元気になるんじゃないかな。

### 最後に先生から一言お願いします

- もっと、高校生と地域が関わる機会があると良いですね。



婦人会の方とののれん染色



同級生や後輩とがんばった格子塗装



イベントでの修景成果の説明

# 景観

LANDSCAPE

# KEIKAN

上越人のDNAを探る

「高田の魅力を語る」座談会

町家、雁木と景観について

南本町三丁目の  
景観まちづくりに参加しました



きもの小川(本町七丁目)

# 「高田の魅力語る」 座談会

景観とはきれいなまちなみや風景だけではなく、人々の生活や活動の積み重なったものです。今回は、高田のまちなかで生活し、仲間とともに楽しく活動をしている方たちに、高田のまちの魅力や町家を住み継いでいく工夫などを聞いてみます。



## 高田のまちの印象

**磯田:** 町さんは高田で民泊を始めて半年ほど経ちますが、高田の印象をお聞かせください。

**町:** 住んでみて、雨の日に雁木があることで、玄関を開けても中にあるような感じが暖かいという印象ですね。外に出て、傘をささないでぼーっとできるというか…。すごい居心地の良さを感じて、落ち着く印象ですね。

**磯田:** 打田さんは、雁木通りの町家でカフェを営業されていますが、どんな印象だったのでしょうか。

**打田:** 高田を見たときに、面白そうなまちだというのが第一印象でした。木造の雁木がすごい長さで連なっているし。雨の日でも雪の日でも歩いているんなところに買い物や、ごはんを食べに行ったり、そういうところが理にかなっているし。一番驚いたのが、自分の土地を提供して雁木を造っているところ。あと、暖かい人が多いですね。住んでいる人を見てもそう思いますし、朝市で買ってきたばかりの野菜をいっぱいもらったり、そういう人の優しさに触れ合えるまちだと思います。

**磯田:** 上越市生まれの小川さんは、高田のまちをどう感じているのでしょうか。

**小川:** 私は、雁木町家の生まれ育ちなのですが、子供心にすごく良いまちだと思っていたんですよ。まちなかなのに自然もたくさんあって、歴史もあって、肌が良いなと感じていて。上越に戻ってきて、最初に感じたのは人がすごく暖かいということですね。隣の距離がすごく近いのも良いなと思いました。

あと、観光地でないというところが、このまちの弱みでもあるんですけど、一番の魅力でもあると思うんですよ。造られたものではなくて、本物だということですね。歴史が垣間見れる、生活している中での建物だということが、他ではまねできない魅力だと思います。

**町:** 造られたものじゃないので、さらさらもしてないけど、その良さに気付ける人が来てくれたら、はまるんじゃないかな。「本物」って大事だなって。

**磯田:** 実際に高田で暮らしている人のまちなみや景観があるのが、高田の強みでもあり弱みでもあると思うのですが、上野さんはどう考えられますか。

**上野:** 観光地じゃないからこそ保存ができていない部分があったり、人々の営みの中で積み重ねてきたものが、どんどん壊れていく。自然な流れに乗せると、どんどんひどいことになっていくような気がして。住民のコミュニティが強いところでは重点的に残していくとかすると良いのかな。

僕は昔ながらの町家にも住んでいた時、子供ながらに家に対してすごく恥ずかしさみたいなものがあった。ただ、全部が近代化されていく先に、本当にいい未来が待っているのかは、疑問に思っているんですよ。今、子供が生まれて、ここで雁木町家らしい暮らしをさせたいという気がしますね。

## 歴史のある建物の保存や活用

**磯田:** 雁木・町家の良さについて皆さんに話していただきましたが、一方で高田のまちの時代を刻んでいた建物がどんどん壊されています。その中で旧師団長官舎の保存運動から始まり、続いてあわゆき組(注1)や街なみFocus(注2)などの団体が立ち上がり、今はそれを使う時代に来ているんじゃないかと思うんです。高田世界館で歴史的建造物を活用する難しさなどについて教えてください。

**上野:** 今の自分が歴史的建造物を活用しているのかな？まちの人も、歴史的建造物だからという思いで寄付してくれているとは思いますが。新しめの映画をやって新たなファンのコミュニティを作っていく中で、歴史的建造物っていう部分はあまり関係ないですよ。

**磯田:** あたりまえに、活用されているから、そこを強く思う必要がなくなっているということだと思うんですけど。そういう意味では次のステージに入っているってことでは。

(一同同意)

**打田:** 浸透しすぎて、普通に世界館としてあるってうか。

**小川:** やっぱ、世界館で映画を観る意味ってあると思います。すごく居心地がいいんですよ。世界館がこのまちにあるってことがどれだけ自分の中で大きな存在か。世界館がなかったら、このまちの楽しさが半減しちゃいますよね。

**上野:** そう言ってもらえると。もちろん、歴史的建造物を利用したまちづくりっていう共通意識をみんなで持つのは大事だと思う一方で、娯楽として人々に浸透できるのが一番良いかなと思います。



## みなさんの活動

**磯田:** 今、全国的に地方のアイデンティティを大切にしながら、既存のストックを生かしていく動きの中で皆さんが取り組んでいる「ミンナデ工務店」の活動に興味があるんですが。

**打田:** 「ミンナデ工務店」はkinaiyaっていうチームで、高田にきないやという気持ちでやっているプロジェクトの一環です。空き町家をみんなで改修して、DIYでも少しずつ直せるというのに興味を持ってもらいたいというので始めたイベントです。これをやることで暗い雁木通りにちょっと明かりが灯るっていう。その中で、漆喰を塗ったり、塗装をしたり、建築的なことを身近に感じてもらうって、最終的には古い家でもうまく使えるんだというところを知ってもらいたいですね。

**磯田:** 町さんや上野さんも一緒にされているんですね。

**町:** 何回か漆喰を塗っているうちに、だいぶコソをつかんだ感じはありますよ。

**磯田:** うまく地域の人を巻き込んでもらえれば良いかなと思うんですが。あわゆき組の活動を通じた、まちの人とのコミュニケーションについてはいかがですか。

**小川:** このまちに住んでいても、町家のことを知らない人が多いと思うんですよ。それをこういう機会に見てもらったら、町家に対する見方が変わるんじゃないかな。そうやってアピールしていけたらよいと思うんですけど。

## 町家の暮らし

**磯田:** まちで暮らしていく上での作法は、建物や修景においてもあるべきだと思っていますが、そういうスキルや建築家としての資質、施主として自分の建物だけじゃない周り近所を担っているんだという意識を持ってもらいたいなとは私は思っているんです。みなさんの思いはどうですか。

**上野:** (悪い意味で目立つ建物は) 周りとのコミュニケーションが無い建て方をしているなど。全体としてコミュニケーションがなくなって、それが景観にも波及しているんだろうなと思います。

**磯田:** 町家を取得した意味は、単に安く手に入ったということだけじゃないでしょうかね。

**小川:** 古い町家に住んでいて、暗くて寒くて住みにくいっていう気持ちをずっと持っている方もいらっしゃるんで、そういう町家がこんな素敵になるんだよ、というのを見せてもらったら、すごく考えが変わると思うんですよ。

**磯田:** その見本が「きもの小川」さんじゃないんですか。

**打田:** そうだね。そういう意味ではすごいですよね。

**磯田:** 小川さんの改修を見て、周りの方々もデザインを合わせていくとか、景観に配慮する意識になっているわけだから。



写真左から

- 磯田 一裕さん：上越市生まれ、建築設計事務所「地域住環境建築研究所」代表、一級建築士、2012年から上越市景観審議会委員
- 町 凌介さん：大阪出身、2018年に上越市へ移住、民泊「上越高田 雁木の宿「町の家 -noie-」」管理人
- 打田 亮介さん：北海道出身、2016年に上越市へ移住、建築内装設計「Re:Works」代表、町家カフェ「Re: イエ」店主、二級建築士
- 小川 菜々さん：上越市生まれ、「あわゆき組」共同代表、「きもの小川」
- 上野 迪音さん：上越市生まれ、「高田世界館」支配人、「高田のまち文化を守る会」主宰

## 高田のまちの未来、まちの景観

**磯田:** 最後に高田のまちの未来、そこに見えてくる高田のまちの景観について、お願いします。

**上野:** 僕は、雁木通りを大事にしたい思いはあるんですけど、景観はビジュアルだけだと違うと思っていて、その地域にどう住んで、まちと呼吸していくかというのが景観なのかな。雁木通りもミセでお茶飲みしたり、そういう緩やかなコミュニティが生まれる可能性はあると思うんですけど。そういう場所を実験的に造っても良いかもしれないし。駆け足でやらないと、どんどん町家がなくなっていくので、早くビジュアルとしても結実させないと。啓発活動ばかりしてはダメです。

**磯田:** 街なみFocusは、格子をつけたり、大根干したり、それは住んでいる人たちの意識の向上だと思うんです。一人一人の意識の変化が、建物やまちなみに結びついていくという。

**上野:** その意味では、大町五丁目は結果として出ていると思います。

**小川:** そうそう、町内の人ね。

**上野:** 南本町三丁目もコミュニティの強さを感じますよね。

**打田:** 景観的に南本町三丁目は、雁木にランプがついていて夜はすごくきれいですよね。夜暗くなってから、町家のミセ部分から電球色の明かりが漏れているのが、きれいで好きですけどね。少しでも空き家を減らしていけば、そういうのに繋がっていくんだろうと思います。

**磯田:** まちの中で魅力あるものがぼつぼつと出てきて、いろんな人の思いが、まちに伝播して、景観も含めて良いものになっていく。ぜひそういう人たちを増やして、輪を広げていきたいですね。

**上野:** ところで、和紙行灯って夏だけ？

**小川:** お盆の時に雁木通りにみんなで灯したら、いいんじゃないかって始めて。今は個人個人で灯してくれる人が増えてきて、そういう人達が冬でも町内でやろうよとかね。

**上野:** 冬にあると、なんかいいよね。

(一同うなづく)

**磯田:** 最初の取り組みが伝播してって、どんどん広がっていくっていう実例だね。

**小川:** 市民も行政も一緒になって認識するっていうことがすごく重要かなと思う。

**町:** 上越市は、認識しているだけまじいと思いますよ。

**上野:** けど、条例づくりはしてほしいですね。

**小川:** 条例とかは、行政でしかできないことだから。

**上野:** 先験的に大町五丁目、南本町でもいいから。

**小川:** 「守ろう」とかね。

**上野:** 壊す前に何か一声かけることを奨励するような。色合いとかも「十分配慮する」とか努力目標でもいいのかもしれないけど、そういうのが一言でもないと。そこから機運も高まっていくっていうのもあると思うんですよ。

**磯田:** それを実現するための住民側からのムーブメントがおきる機運を作るというか。造る側のまちへの作法を心得ていて、場所と建物の性格と利用者のこととか、全て考えていかなきゃいけないという意識で、まちの人たちも改修していってくれたらありがたいなと思います。

(注1) 雁木町家の町並みと暮らしを次世代に継承するため、まちの魅力発信を重点に活動を行っている市民団体。角巻・とんびを着て雁木町家ツアーを行うあわゆき道中のほか、旧今井染物屋や高田世界館で読みかたりなどを行っている。

(注2) 本町六丁目、七丁目、大町五丁目、仲町六丁目を中心とした高田中心市街地の歴史、文化、景観、産業を守り育て、また、それらの地域資源を生かした地域の活性化を目指すNPO法人。格子取り付けなどの景観保全、セミナー開催などの意識啓発活動を行っている。

